

Miaz-motte

名古屋 JCI がつくる広報誌 マズモッテ

Vol.1
2022.01.25



Miaz-motte

Vol.1
2022.01.25

名古屋 JCI がつくる広報誌



発行者/公益社団法人名古屋青年会議所
〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目15番24号 名古屋JCI会館 TEL 052-221-8590

公益社団法人名古屋青年会議所 2022年度(第72年度)スローガン

一人ひとりの情熱で NAGOYAの未来を 輝かせよう!

Junior Chamber International NAGOYA 2022

賛助・協賛企業 の募集について

■賛助・協賛について

名古屋青年会議所は70年間に亘り、名古屋のまちを想い、活動してきました。今後、より一層まちや市民の皆様から求められる運動を展開していくためには、単独の活動ではなく、多くの方々から共感を得て、共に活動していくことが大切であると考えています。

そこで、当青年会議所では社会課題の解決に向けて、あらゆるパートナーと連携し、新たな価値、すなわち持続可能なブランドや事業を創造していく取り組みを行っています。青年会議所運動にご賛同いただける企業・団体・個人の方には賛助として、それぞれの事業・例会にご賛同いただける方には協賛としてご支援いただき、協働して運動を展開しています。

賛助いただける利点として、当青年会議所は、600名近い青年経済人である会員から形成されており、経営者層の間も多く在籍しておりますが、その会員に対して、貴社の活動内容や特色をアピールする機会を設けさせていただきます。また、我々は、地域との協働により、明るい豊かな社会を実現するために活動しております。

広報誌やWEBの活用により、貴社を賛助企業としてPRすることで、より一層のイメージアップを図ることができます。

■協賛によってなされた事業

本年度、当会議所は、複数の事業・例会を、外部企業・団体等の協賛金に支えられて実施しました。例えば、7月のRebootNagoya JCIフェスティバル例会(名古屋の魅力を発信する例会)では、名古屋・栄エリアのテレビ塔付近にある噴水にて、大規模な噴水ショーを開催するにあたり、外部協力者の皆様から多くのご協賛をいただきました。

また、2018年度から続いている、名古屋の観光起点となるアットナゴヤモニュメントを2基制作しました。2021年度に制作したアットナゴヤモニュメントは、カラフルなデザインや、石を組み立ててつくった従来とは一味違うモニュメントをレイヤード ヒサヤオドリパーク並びに東山動植物園へ設置させていただきました。

■賛助・協賛の方法

2022年度(第72年度)では、当青年会議所の目的に賛同し、その活動を援助することによって当青年会議所の発展を助成しようとする企業・団体に対し、ご要望に応じた賛助プランをご用意しています。また、各事業・例会に対してご協賛いただく場合には、担当委員会と共にその内容を定めていただくことになります。詳細につきましては、名古屋青年会議所事務局を通して、JCIブランディング委員会までお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先 公益社団法人名古屋青年会議所
2022年度(第72年度) JCIブランディング委員会
メールアドレス: nagoyajc.72jcb@gmail.com

賛助企業 株式会社ミロク情報サービス
東海東京証券株式会社
コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

マズモッテ定期送付ご希望の方へ

携帯・スマートフォン・パソコンからお申し込み

①QRコードを読み取って下さい



②「マズモッテ定期送付依頼フォーム」から
必要事項をご入力下さい。

※QRコードでなく、直接ご入力の際は下記アドレスをご入力下さい。
https://www.nagoyajc.or.jp/68nendo/about/mazmotte/main_form.php
※ご記入いただいた個人情報は、個人情報保護法に従い取り扱います。
※公益社団法人名古屋青年会議所に関する情報提供以外の目的では利用いたしません。
※アクセスにはご契約の通信料がかかります。

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

名古屋の魅力を発信する情報をゲット!

名古屋青年会議所のホームページやSNSでも情報を発信中!



公益社団法人名古屋青年会議所
〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目15番24号
TEL 052-221-8590 FAX 052-202-0464

http://www.nagoyajc.or.jp
名古屋青年会議所 検索



今年も、国内外の優れたスタートアップと地域のモノづくり企業とのオープンイノベーションにより、イノベーションが次々と創出される、愛知独自のスタートアップ・エコシステムの形成を促進し、海外先進地域との連携を深め、世界に例を見ないグローバルなイノベーション創出拠点の形成を目指します。

また、リニア開業を見据えた社会基盤整

2022年元旦

2022年 年頭所感 新春を迎えて

あけましておめでとございます。

昨年は、オール愛知で一丸となって、新型コロナウイルス感染症の「克服」に向けた取組を進めるとともに、ジブリパークの整備推進、愛知県新体育館、スタートアップ支援拠点「STATION A」の整備着手など、感染症克服後を見据え、愛知を「前進」させた1年となりました。

世界は、グローバル化の進展やそれに伴う感染症リスクの増大、デジタル技術の急速な発展など、加速度的な変化を遂げています。今後も、愛知が日本の成長エンジンとして、我が国の発展をリードしていくためには、変化に的確に対応し、イノベーションを巻き起こしていかなければなりません。

今年7月には、国際芸術祭「あいち2022」を開催します。秋には、ジブリパークの「青春の丘エリア」「ジブリの大倉庫エリア」「どんどこ森エリア」が開業します。愛知の魅力を高める取組も着実に進めてまいります。

愛知県は今年、1872（明治5）年の誕生から150周年を迎えます。県民の皆様は、将来も愛知県に住み続けたいと思っただけでなく、全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。



愛知県知事
大村 秀章

世界に冠たる NAGOYAへ

年頭にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年は、緊急事態宣言等が発令された際、不要不急の外出自粛、営業時間短縮などの感染症対策に大変なご協力を頂き御礼申し上げます。本市においては、「感染者・濃厚接触者に対する積極的疫学調査」や感染状況に応じた幅広い丁寧な健康観察の体制強化などに取り組むとともに、ワクチン接種では医療関係者はじめ皆さまの多大なご協力を頂くことで、早期に計画目標を達成することができました。改めて御礼を申し上げますとともに、私も行政は「いのち」を守るための感染症対策に引き続き取り組んでまいります。

一方、ナゴヤの「くらし」においては、本年には市内経済をさらに盛り立てるため、過去最大の約50億円分・30%のポイント付与率及びプレミアム率による、総額約200億円の電子商品券と紙のプレミアム商品券を発行することで、ナゴヤの消費を大いに盛り上げてまいります。経済波及効果は1年間で約220億円を見込んでいます。ことから、キャッシュレス決済の利用促進等によりナゴヤのデジタルトランスフォーメーションを進める未来への投資となるとともに、市内経済の回復に寄与するものと強く

令和4年元旦



名古屋市長
河村 たかし

確信しております。

コロナ禍により社会経済は一変しましたが、戦後の焼け野原から世界でも有数の都市へと復活したように、私たちは再び力強い一歩を踏み出していかなければなりません。令和の時代は、リニア中央新幹線の開通による世界最大の都市圏（スーパーメガーリジョン）の誕生、愛知・名古屋2026アジア競技大会の開催、そして誇りと郷土愛に溢れる名古屋城天守閣の木造復元など、「世界に冠たるNAGOYA」へ向け、さらに大きく踏み出す時代となります。

その新たな時代の主人公となるナゴヤの子どもたちが幸せを感じ健やかに成長できるように、子どもを全力で守り、応援するべく、子どもが楽しく感じられる新しい学校づくりに取り組んでまいります。

ナゴヤの復興とさらなる発展のため、本年もどうぞよろしく申し上げます。

Junior Chamber International NAGOYA 2022

理事長ご挨拶

平素は、公益社団法人名古屋青年会議所の活動に多大なるご理解とご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会や経済は混乱し、市民はそれまでの日常を完全に失い、考えから生活様式に至るまで、新しい形にシフトしつつあります。しかし、回復への道のりは平坦なものではなく、依然として先行きは不透明なままです。社会が混沌としているからこそ、名古屋青年会議所がまちを支えていかなければならないと考えます。

しかし、社会は多様化し、様々な団体や組織が存在する中で、名古屋青年会議所単体ではまちの課題を効果的に解決することが難しくなっています。だからこそ、今の時代に必要なのはパートナーシップだと思えます。青年会議所は縛りが強い組織に見えて実は自由度が高く、どのような団体・組織・企業とも連携できます。自分たちが所属する組織の存在意義や自分たちが情熱を注ぐ事業を、情熱的に語ることであれば、多くの人に賛同をいただき、私たちの運動はさらに大きく広がり、名古屋のまちを輝かせると信じています。

一人ひとりが名古屋を輝かせ、スターとなれ！

情熱が未来予想図を創る！

明るい豊かな社会の実現のために、名古屋のまちの未来予想図を市民の皆様や関係諸団体の皆様、そして会員の皆様とつくっていきます。

まずは「まち」づくりです。

名古屋市内に「住みやすい」と答える人は多

いが、「最も魅力的な街」遊びに行きたいと思う」の項目で、名古屋は日本の主要8都市の最下位であります。まちに魅力がなければ住む人や観光に来る人も減少し、まちの力も低下してしまいます。市民がまちに対して愛着や誇りをもつことが重要だと考えます。

そして、アフターコロナ時代を盛り上げるためには、グローバル化を進めることが重要になってきます。外国人の受入れに対して、フードバイバシティー・宿泊施設・グローバルサインなどの体制も整えていかなければなりません。

さらに、リニア中央新幹線の開通に向けて、新たなモビリティを活用した社会をパートナーと共に創造し、人が出ていくまちから、人が集まり、とどまるまちになるための名古屋の未来を描く未来予想図をつくっていきます。

次に「人」づくりです。

スマートフォンにおけるコミュニケーションは希薄化しており、今後一層薄まることが懸念されています。人と人が交差合う新たなコミュニケーションを創造するために、わんぱく相撲事業にて、地域のひとと人のつながりを促進してまいります。

そして、すべての人が活躍する未来のために看過できない問題のひとつが女性活躍だ

と考えます。女性をはじめとし誰もがありのままの自分で積極的に仕事ができる環境をつくり、男性の育児参画を推進し女性が活躍し輝きのある社会をつくってまいります。

次に「経済」です。

名古屋の未来予想図を描く時、最も大切なことは「持続可能か」という考えです。名古屋は2019年にSDGs未来都市に選定されました。中小企業のSDGs実践にもつなげてまいります。

そして、新型コロナウイルス感染症を経た社会は、リアルとオンラインが同居するようになり、いい街には最先端の考え方を取り入れる企業が多く存在します。企業へのDX推進を全力で応援していきます。

また、今後、地震・台風・疫病などの自然災害は必ず発生します。その時のために、今からあらゆる準備をする必要がございます。被災した状況をリアルに想定し、災害に向けて備蓄の推進をしてまいります。

さらに、コロナ禍においてリモートでの勤務や休業など働き方に変化があり、精神的な健康面のメンタルヘルスのケアは、今までのやり方ではフォローできなくなっています。

健康経営に取り組む企業を推進し、従業員が働きやすく、輝きのある企業を増やしていきます。

次に「国際」です。

グローバルに活躍できる若者を育成するため、毎年開催している3GIP Projectを行政の皆様、各種団体の皆様との連携を厚くして持続可能な形で開催いたします。

そして、アフターコロナ時代の先駆けとして国際ビジネスに挑戦する企業を後押しいたします。

また、2026年には、愛知・名古屋で第20回アジア競技大会が開催される予定です。開催都市としての地域活性化を図り、機運を高める必要があると考えます。スポーツを通じて未来をつくる若者同士が、相互理解の関係を構築し、アジア競技大会に向けて機運を高める事業に挑戦してまいります。

結びに、市民の皆様、関係諸団体の皆様、会員の皆様におかれましては、本年度も、公益社団法人名古屋青年会議所の運動への深いご理解と、多大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

日本青年会議所 基本理念

まちにより良い変化をもたらし 愛が溢れる国をつくる



公益社団法人日本青年会議所

第71代会頭

高橋 直人

公益社団法人名古屋青年会議所の皆様、あけましておめでとうございます。日頃より公益社団法人日本青年会議所に対し、格別のご高配を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。また、本年度は、副会頭に光田侑司君をはじめ多くの出向者をご輩出下さり、重ねて感謝申し上げます。

本年度、高橋雅大理事長のもと「1人ひとりが名古屋を輝かすスターとなれ！」情熱が未来予想図を創る！」を掲げられ、社会課題に対し、多くの持続可能な仕組みをつくる運動を展開される事と存じます。中でも、まちの未来を描く運動は、市民の皆様やメンバーを照らし続ける北極星として輝きを放たれるものと思えます。素晴らしい挑戦に心より敬意を表します。

日本青年会議所と致しましては、「まちにより良い変化をもたらす愛が溢れる国をつくる」を基本理念として掲げ、各地青年会議所と手を携え、皆様のまちを良くするための運動を展開してまいります。引き続き深いご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、私共を大いにご活用頂ければ幸いです。

結びに、貴青年会議所のさらなるご発展、並びに地域において素晴らしい運動の成果を出されること、さらに、現役会員、先輩諸氏の皆様にとって実り多き一年となられますことを心よりご祈念申し上げます。



名古屋商工会議所
会頭 山本 亜土

令和4年 年頭所感

明けましておめでとうございます。皆様には、令和4年の新春を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの変異株が国内でも爆発的に拡大し、その影響の長期化により飲食や観光、運輸などの事業者を中心に厳しい経営環境に追い込まれ、コロナに翻弄された年でありました。ワクチン接種が進み、昨年の秋以降、国内での感染者は落ち着いているものの、世界的には収束の兆しが見えず、今なおウイルスとの闘いが続いております。

また、持続可能な社会の実現に向けた環境対応の流れが加速し、政府からは「2050年カーボンニュートラル」が宣言され、COP26「グラスゴー気候合意」では、「産業革命前からの気温上昇幅を1.5℃に抑えること」が目標として明記されるなど、厳しい大きな命題を突き付けられた社会経済の転換点でもありました。

今年は、世界各国の連携のもと、感染症対策やグローバルな気候変動の危機などの共通課題の解決に向けて改めて危機感を共有し、相互協力していくことが、層強く求められるものと思えます。

経済の正常化に向けて

新型コロナウイルス対策として、昨年7月には商工会議所でも名古屋市の皆様とワクチン接種の機会を提供させていただくことができました。今後はブースター接種や抗体カクテル療法の活用、経口治療薬の開発普及などにより、経済の正常化が進んでいくものと期待しており、次なる感染の波に十分留意しながら「経済を回す」ことに力点を置く必要があります。

新型コロナウイルスに加えて、コロナ禍で顕在化したデジタル化の遅れなどの諸課題への対応は、今後の私どもの経済活動全般に大きな変革を強いることとなり、経営者の皆様にはこうしたビジネス環境の変化に迅速かつ的確に対応していくことが求められています。

中小企業支援、挑戦する企業の後押し

昨年11月に第2次岸田内閣が発足し、今年度は「成長と分配の好循環」の実現に向けた取り組みが本格稼働いたしますが、わが国の発展には国内事業者の99%超を占める中小企業がコロナ禍から立ち直り、新たな価値を創出しながら生産性を高めていくことが必要であると考えています。

私ども商工会議所としては、4月から中小企業部の組織体制を抜本的に見直し、地域経済の担い手である中小規模事業者の事業継続に向けた約70名の経営指導員による「伴走型支援」をより充実したものに致します。さらに、ビジネス環境の変化を前向きに捉え、デジタル化や新規事業などに果敢に挑戦しようとする中小企業スタートアップの皆様を全力で支援して参る所存です。具体的には、名古屋中小企業 IT 化推進コンソーシアム(PitInagoya)によるIT活用やセキュリティ対策の支援、クラウドファンディングや各種補助金活用による新規事業挑戦のサポートに加えて、会員の皆様から多くの期待をお寄せいただいている「メッセナゴヤ」

デジタル化・カーボンニュートラルがもたらす産業の大変革への対応

今後、5Gなどの次世代通信技術やセンシング技術、AIの発達により情報の高度利用が益々進みさらにカーボンニュートラルへの対応が重なることで、様々な産業の構造や経済活動が変革されていくものと思えます。

当地主力の自動車産業に関しては、CASEMASに代表される「百年に一度の大変革」が進んでおり、商工会議所としては、自動運転に関する法規制やCASEM実現に向けた要素技術、EVシフトに対応するサプライヤーの動向を紹介して参ります。

また、DX(デジタルトランスフォーメーション)があらゆる企業に必要なものとなることから、働き方やサービスのあり方に変革をもたらす仮想現実(VR)をテーマとした展示会や、利便性が高まる様々なITツールの活用支援、デジタル活用で強みを持つ企業と地域の事業者とのマッチングなどにより、地域全体のDXを推進します。

カーボンニュートラルに向けては、新素材・新技術などの紹介セミナーや視察会に加え、環境技術が一堂に会する「クリーンテック技術展」を開催いたします。

東京極集中の是正と地域力の向上

コロナ禍で、人や企業あるいは情報が首都圏に過度に集中していること、リスクが改めて認識されました。また、自然災害の頻発するわが国においては、国土強靱化やリダンダンシー(代替性の確保)が喫緊の課題であり、首都機能を全国数か所へ分散するなどとして、バックアップする具体的な取り組みが必要とされています。

また、引き続き、「なごのキャンパス」を核にスタートアップ支援に取り組むほか、医療機器産業や航空宇宙産業、農業分野への進出を支援するなど、モノづくり・情報技術を活かした多角化販路拡大もサポートして参ります。

特に、日本の中央に位置する当地は、リニア中央新幹線の早期全線開業と中部国際空港の2本目滑走路として名古屋駅のスーパーターミナル化が実現することで、スーパーメガリージョンの中心(中央)として、首都圏のバックアップ機能を十分に備えた地域に成り得ると考えております。

また、東京・極集中の是正を唱えるには、それを受け入れるそれぞれの地域の魅力向上も大変重要な要素です。当地においても首都圏にない独自の「なごの街の魅力」を高めていく努力を、経済界や行政さらには市民の皆様を巻き込んで継続していく必要があると思えます。

具体的には、都心部をもっと「歩いて楽しい街」へと発展させていくために、道路や公園、河川(名古屋三川)を活用した賑わいある空間づくりを行政やエリアマネジメント団体の皆様と進めていきたいと考えています。また、名古屋の歴史や文化、モノづくり技術を想起させる「匠土産」や「なごや菓八菓」などの土産物の認知度を高め、名古屋の魅力向上と誘客へつなげていくことに加え、アジア圏から多くの人が訪れ、当地の注目が高まる2026年のアジア競技大会を見据えてスポーツの振興にも注力いたします。

こうした取り組みを通じて、引き続き「躍動し愛されるナゴヤ」の実現を目指して参ります。

むすび

今年度は反転攻勢をかける年です。コロナで活動がぶつた2年間の遅れを取り戻すためにも、地域経済の再生と躍動し愛されるナゴヤの実現に向け、火付け役として、あるいは仲介役として、自ら汗をかきながら取り組み、その動きが連鎖的に広がるよう努めて参ります。

また、中期計画2021-2025で描いた当地の将来像「企業街のいたるところでイノベーションが生み出される都市」に向け、関係機関との連携協働を図りながら、迫りくる様々な課題に対応した事業を具体化して参る所存です。

会員の皆様には本年も、商工会議所に対する一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

第72年度
専務理事

神谷勇輝



第72年度は、6グループにて 輝かしいNAGOYA

総務
グループ

グループ長
桑野佑介



持続可能な
名古屋青年会議所としての
組織運営

国際
グループ

グループ長
早矢仕友幸



国際的な人材の育成、
近隣諸国との相互理解、
国際ビジネスの推進

経済
グループ

グループ長
木下智靖



SDGsの実践、DXの推進、
持続可能な企業への推進

「人」づくり
グループ

グループ長
竹腰正見



女性活躍の推進、
新たな地域コミュニティ
の創造

「まち」づくり
グループ

グループ長
鶴飼伸弥



名古屋市への提言書の作成、
まちの魅力の発見・確立、
新モビリティの創造

ブランディング
グループ

グループ長
深澤和将



対内・対外に対する
運動への参画意識の醸成と
組織のブランディング



情熱をもって運動を展開し、 の未来を創造してまいります。



JCI

APDC
開発担当役員
安藤 恭平

公益社団法人日本青年会議所

副会頭
光田 侑司

インクルージョン推進委員会
委員長
竹腰 正見

内部会計監査人グループ
副代表
保浦 功太郎

新たな資本主義創造会議
副議長
小栗 崇嗣

財務運営会議
副議長
伊藤 彬史

組織改革委員会
副委員長
渡辺 真司

LOM支援委員会
副委員長
宮地 宏明

サマーコンファレンス特別委員会
副委員長
高橋 亮

ウェルビーイング経営委員会
副委員長
篠田 旭弘

コンベンション支援委員会
副委員長
岩下 大高

持続可能な国際協力委員会
副委員長
山田 洋資

渉外委員会(光田副会頭特別補佐)
副委員長
柳澤 幸佑

総務委員会
副委員長
児玉 昇之

インクルージョン推進委員会
総括幹事
富永 晃司

内部会計監査人グループ
幹事
油谷 景子

全国大会運営会議
幹事
安田 優

ベビーファースト委員会
幹事
田口 知

公益社団法人日本青年会議所 東海地区協議会

顧問
杉原 雅也

JCI日本連携推進委員会
副委員長
水島 秀輝

公益社団法人日本青年会議所 東海地区 愛知ブロック協議会

監査担当役員
山内 昭吾

ブロックアカデミー委員会
委員長
渡邊 建介

ブロックアカデミー委員会
副委員長(塾長)
坪内 禪

愛知の未来創造委員会
副委員長
木全 皓男

組織改革戦略委員会
副委員長
加藤 亮太

ブランディング委員会
副委員長
黒谷 泰貴

ブロック大会運営委員会
副委員長
小林 道弘

ブロックアカデミー委員会
塾幹事
小柳 智幸

ブロックアカデミー委員会
総括幹事
神山 真衣

ブロックアカデミー委員会
運営幹事
岡山 将典

ブロックアカデミー委員会
広報幹事
弘田 武将

ブロックアカデミー委員会
会計幹事
山本 真輝

事務局
監査担当役員補佐
島田 大八

事務局
監査担当役員補佐
川津 友斗

事務局
監査担当役員補佐
伊藤 彰洋

事務局
監査担当役員補佐
谷口 慎太郎

事務局
監査担当役員補佐
中野 雅仁

敬称略。なお、スペースの都合上、
スタッフ出向者のみご紹介させていただきます。

年頭所感

未来は僕らの手の中にある。



公益社団法人日本青年会議所
2022年度東海地区協議会

会長
新谷 剛士

2022年の年頭において、公益社団法人名古屋青年会議所の輝かしい一年の始まりに当たり、一言所感を寄稿させていただきます。

まずは平素から公益社団法人日本青年会議所東海地区協議会へ役員やメンバーのご輩出、そして開催地として様々なご支援とご協力を賜っておりますことに心から感謝御礼を申し上げます。

振り返ってみると新型コロナウイルスが、猛威を振るい、一年のほとんどを外出自粛等で過ごすことになった2021年でした。しかし、各地会員会議所では運動を止めずに創意工夫を凝らして様々な事業を展開され、歴史を紡いでいただいたことを心から嬉しく思っています。

第72代高橋理事長のスローガンでは「一人ひとりが名古屋を輝かすスタートなれ」と力強く発信していただいております。青年会議所は全国に会員がいますが、大勢のうち1人ではなく、たった1人の1年がここから始まっていくと思えます。また

く同じ人生を歩む人というのはいないと同様に、JAYCEEとして全員がスターであり、この一年という短い時間を全員が全力投球してこうという情熱のこもった思いがこのスローガンに込められていると感じました。

「未来は僕らの手の中にある。」東海フォーラムにて2022年度会長候補者として、私はこのフレーズをまじえてご挨拶をさせていただきます。

私たちは未来を創造する能力があり、その未来を実現する行動力があります。その未来をつないでいく信念があります。世界や国内の情勢によって当たり前が当たり前ではなくなっていく時代ではありますが、私たちは大丈夫！どんなことがあっても叡智と勇氣と情熱を持って切り抜けることができるでしょう。

2022年の名古屋青年会議所の輝かしいご活躍とご発展を祈念して末文にかえさせていただきます。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。年頭にあたり、公益社団法人名古屋青年会議所の皆様方のご健勝とご繁栄を心よりお祈り申し上げますとともに、平素から愛知ブロック協議会の活動・運動につきましまして格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

一昨年より愛知・日本・世界中を巻き込んだコロナ禍は、徐々に明るい兆しは見えつつも、いまだ経済・社会に多大な影響を残しています。皆様の社業・プライベートも、コロナ以前には想像もできなかった状況にあるのではないのでしょうか。青年会議所もまた、仲間との時間が奪われ、地域の皆様との触れ合いまでもが制限され、その意義を問われています。しかし、いつの時代にも重大な社会問題があり、日本は戦争や自然がもたらす困難を幾度も乗り越えてきました。終戦後という時代の転換点に「明るい豊かな社会」を志した青年が立ち上げた、私たち青年会議所には地域から新しい時代を創造する責任があり、私たちの描く未来

が日本を輝かせると確信しています。

こうしたなか、愛知ブロック協議会2022年度は、「革新から飛躍へ」33の灯火によるドラマチックな愛知を共創」をスローガンに、33LOMと国内外をつなぐ伝道者としてその活動・運動の下支えをし、またこれからの時代に求められる人づくり、愛知の企業の技術を活かした国際協力をするとともに、より地域に身近な存在としての情報発信・災害協力を通じ、愛知の共創を実現します。高橋理事長が所信に掲げられたパートナーシップを更に多いものとし、名古屋のまち、さらには愛知全体を情熱溢れる舞台へと変えていきましょう。

結びに、本年が皆様にとって一度きりの人生の転機となるドラマチックなものとなるよう邁進致しますので、どうか一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。また、今後の皆様のご活躍を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

愛知ブロック協議会 2022年度スローガン

革新から飛躍へ
33の灯火による
ドラマチックな愛知を共創



公益社団法人日本青年会議所
東海地区 愛知ブロック協議会

2022年度 会長
野々山 寿人

